

I. 令和6年度の野生鳥獣による農林業被害の発生状況と傾向について

1 概要

(1) 農林業被害の推移

山口県における野生鳥獣による農林業被害は、平成22年度以降、減少傾向にあります。令和6年度の被害金額は、対前年度比3%増の約3億4千8百万円となりました。

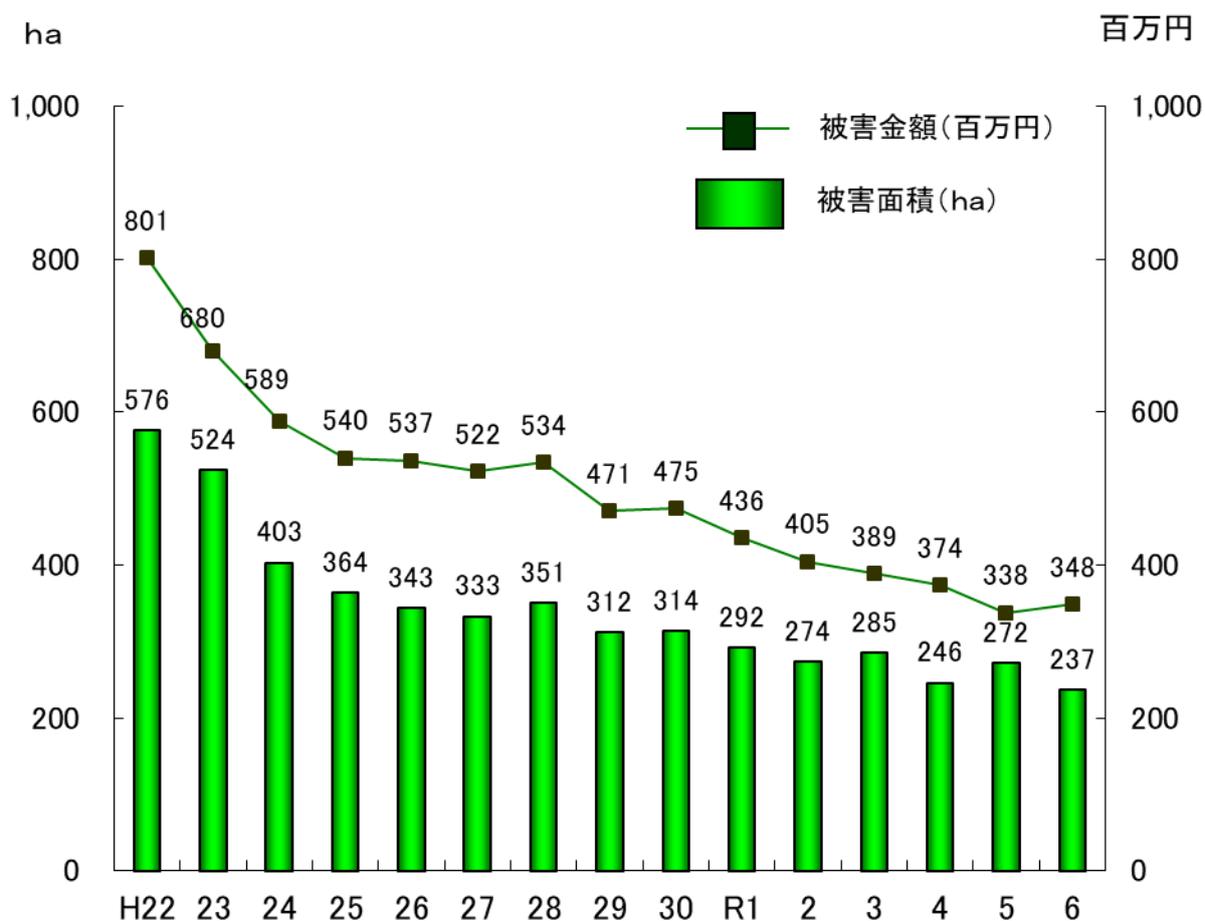


図-1 被害面積及び被害金額の推移（鳥獣被害全体）

(2) 鳥獣別・作物別被害の内訳

令和6年度の被害金額を鳥獣別に前年度と比較すると、イノシシは増加し、シカ、サルは減少しています。

鳥獣別の被害金額は、獣類が約3億1千1百万円（全体の89%）、鳥類が約3千7百万円（全体の11%）となっています。

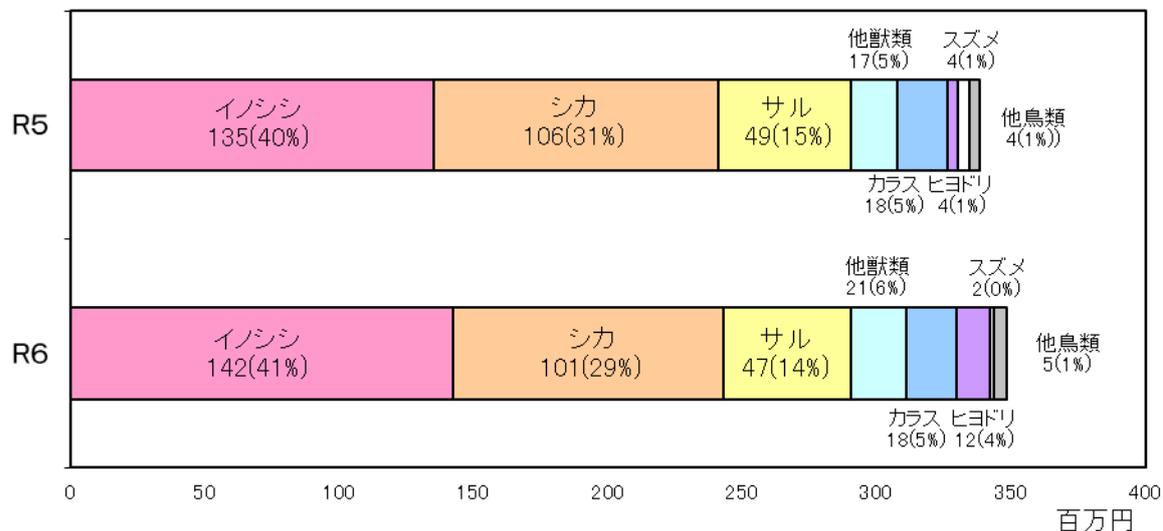


図-2 鳥獣別の被害金額

作物別の被害金額は、例年どおり水稲が最も多くなっています。被害金額は、水稲、果樹、造林木は増加、野菜、いも類、その他は減少しています。

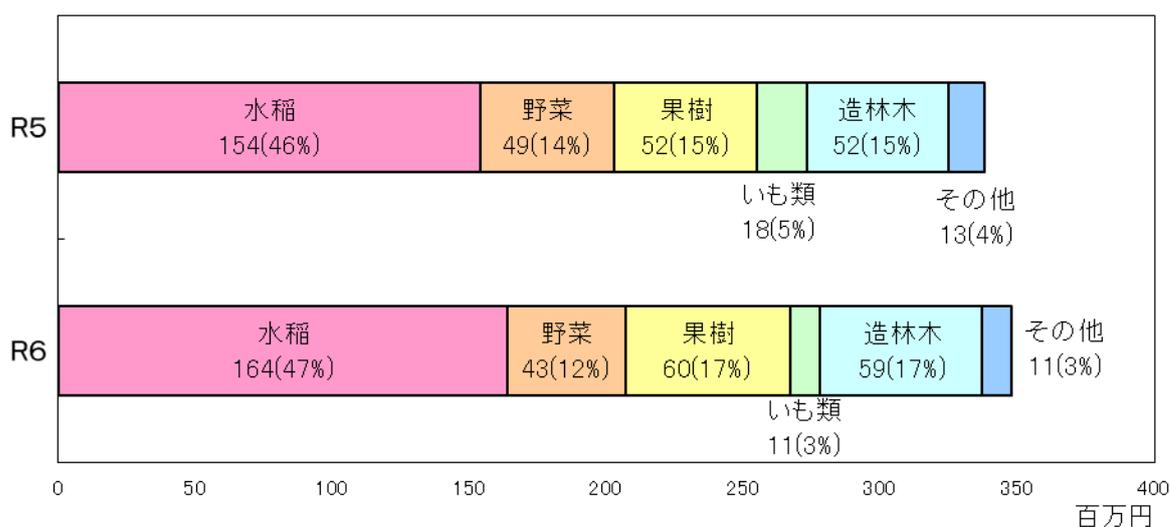


図-3 作物別の被害金額

【参考】捕獲数の推移

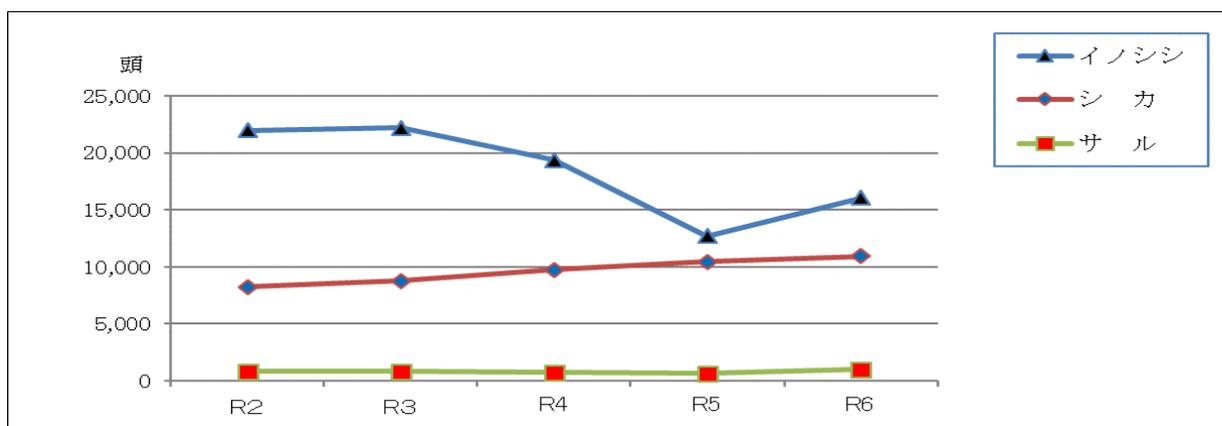
捕獲数については、猟友会の協力により、増加傾向にある。

捕獲数は、前年度と比べ増加し、シカ、サルについては過去最高となった。

○主要獣類別の捕獲実績（R 6 は速報値）

（単位：頭）

区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	増減
イノシシ	22,004	22,228	19,400	12,715	16,057	+3,342 頭(26.3%増)
シカ	8,255	8,775	9,757	10,470	10,943	+473 頭(4.5%増)
サル	801	816	706	618	993	+375 頭(60.7%増)



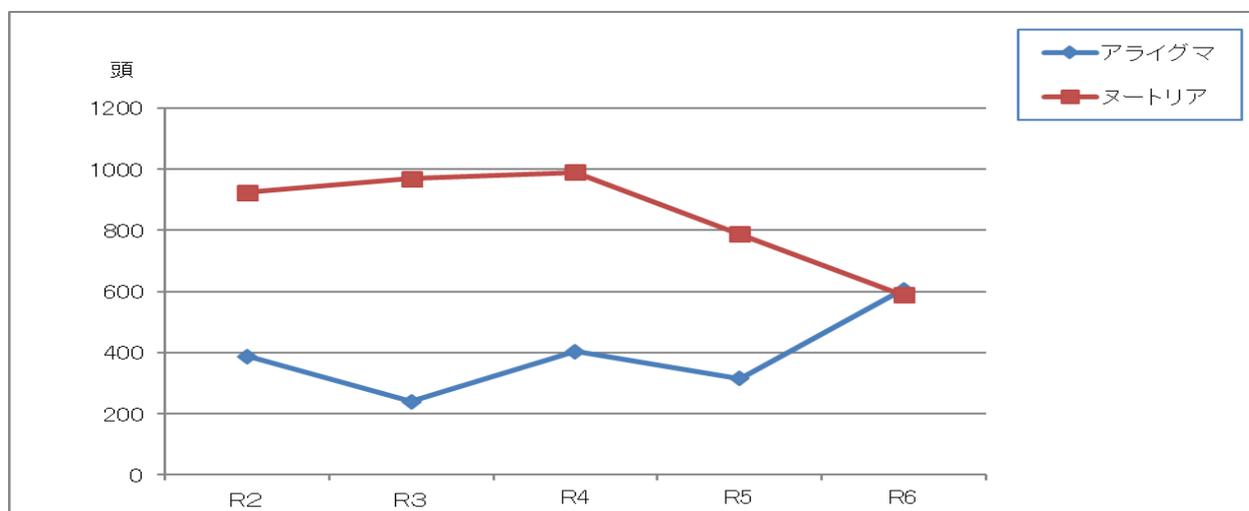
アライグマの捕獲数は、増減はするものの増加傾向にある。

ヌートリアの捕獲数は、減少傾向にある。

（単位：頭）

区分	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	増減
アライグマ	387	239	404	315	606	+291 頭(92.4%増)
ヌートリア	924	968	989	788	588	▲200 頭(25.3%減)

主要獣類別の捕獲推移



2 獣類別の被害状況

(1) イノシシ

イノシシによる被害は、前年度比5%増の約1億4千2百万円となり、被害額がピークであった平成22年度以降で2番目に少ない被害額となっています。

令和6年度の被害額の増加については、豚熱の感染拡大により一時的に減少した生息数の回復も要因の一つとして考えられます。

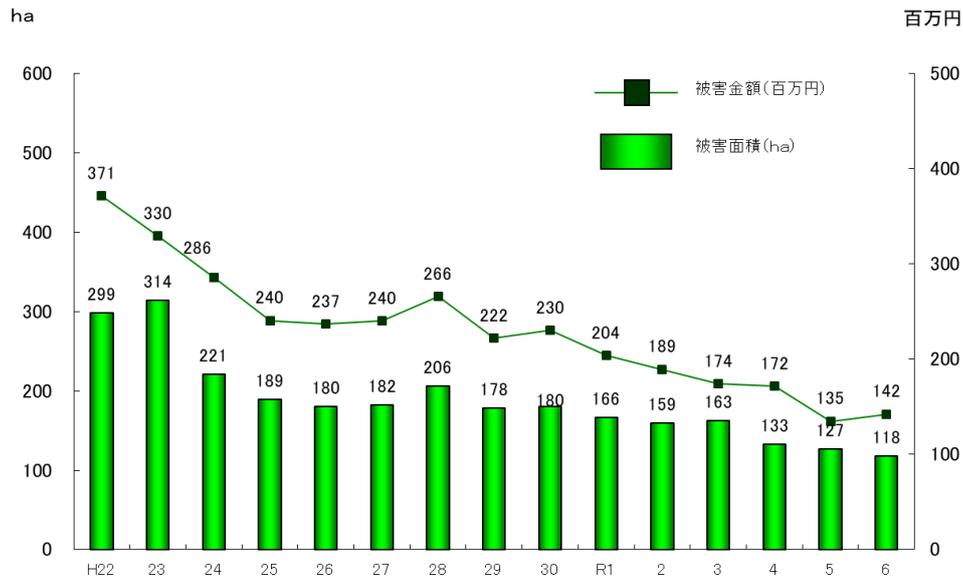


図-4 被害面積及び被害金額の推移 (イノシシ)

被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合は5割弱で推移しており、鳥獣による被害の中で、最も大きな割合を占めています。

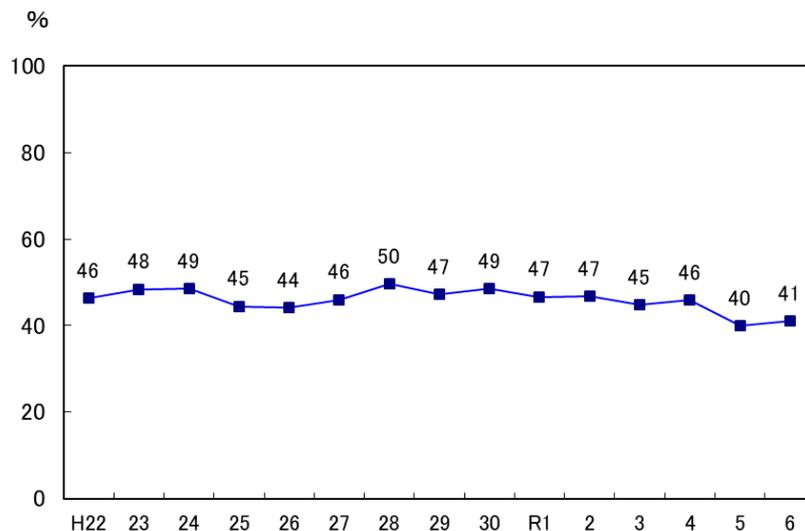


図-5 被害金額全体に占めるイノシシ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、水稻が約1億2千2百万円と最も高く、被害金額全体の86%を占めています。次いで、いも類、果樹、野菜の順になっています。

百万円

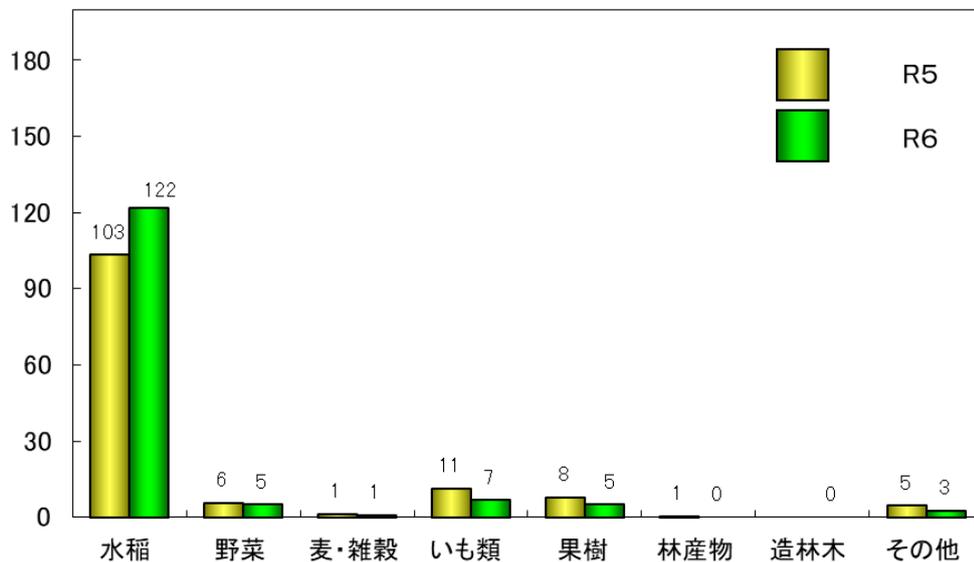


図-6 イノシシによる作物別被害金額

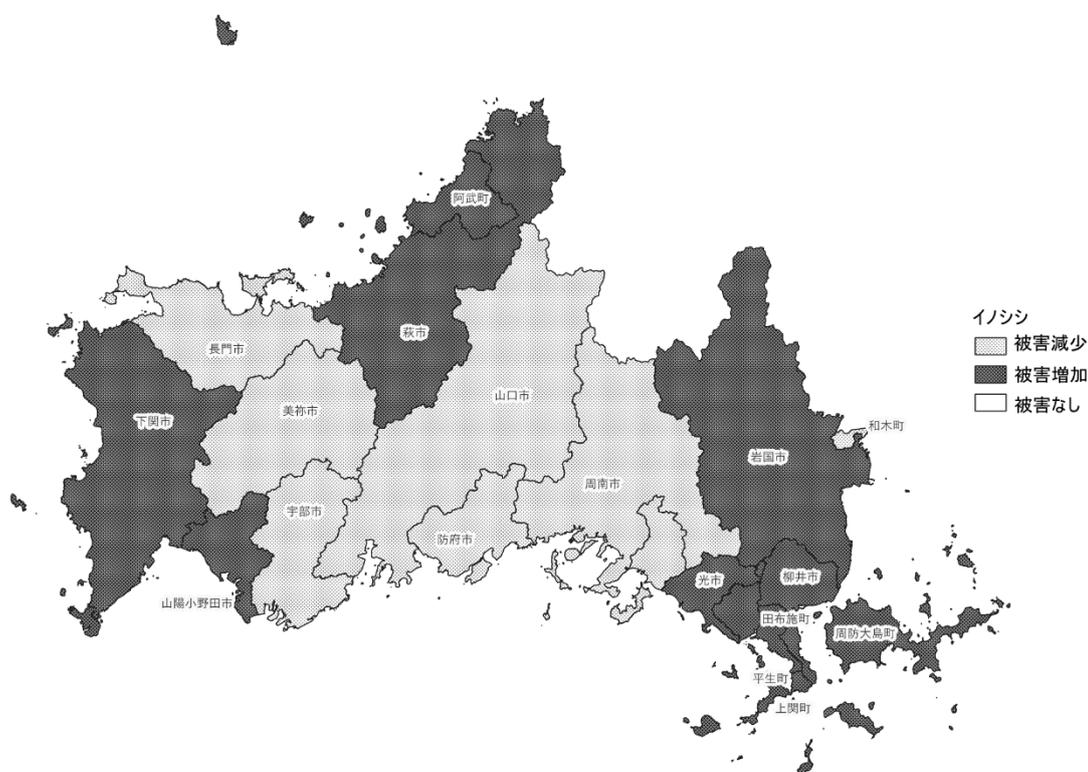


図-7 イノシシ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(2) シカ

シカによる被害は平成29年度から減少傾向にありましたが、令和2年度以降は増加傾向にありました。

令和6年度は対前年度比5%減の約1億1百万円となっています。

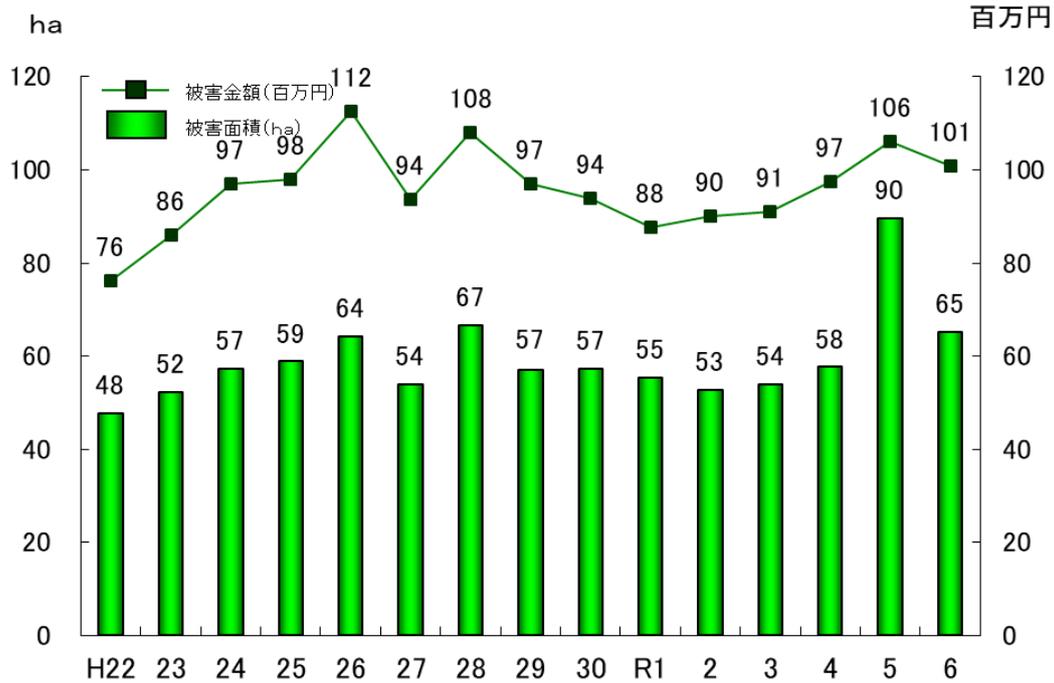


図-8 被害面積及び被害金額の推移 (シカ)

近年は、被害金額全体に占める割合は20%前後で推移していましたが、令和2年度以降、徐々に割合が上がっており、深刻な影響が懸念されます。

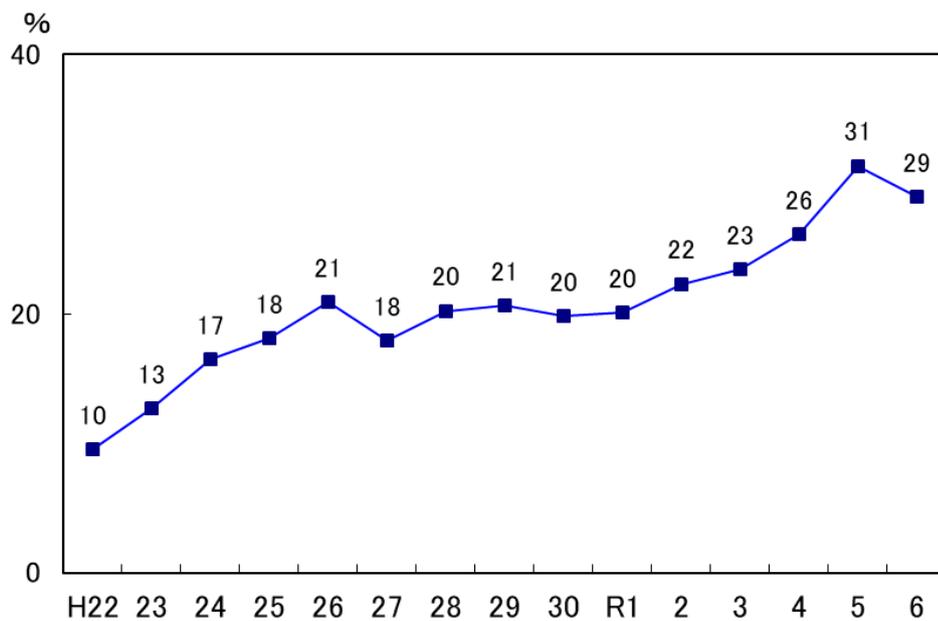


図-9 被害金額全体に占めるシカ被害の割合の推移

作物別の被害金額では、造林木の角こすりによる被害が最も大きく、全体の49%を占めており、次いで水稲、造林木の食害、果樹、いも類、野菜の順となっています。

百万円

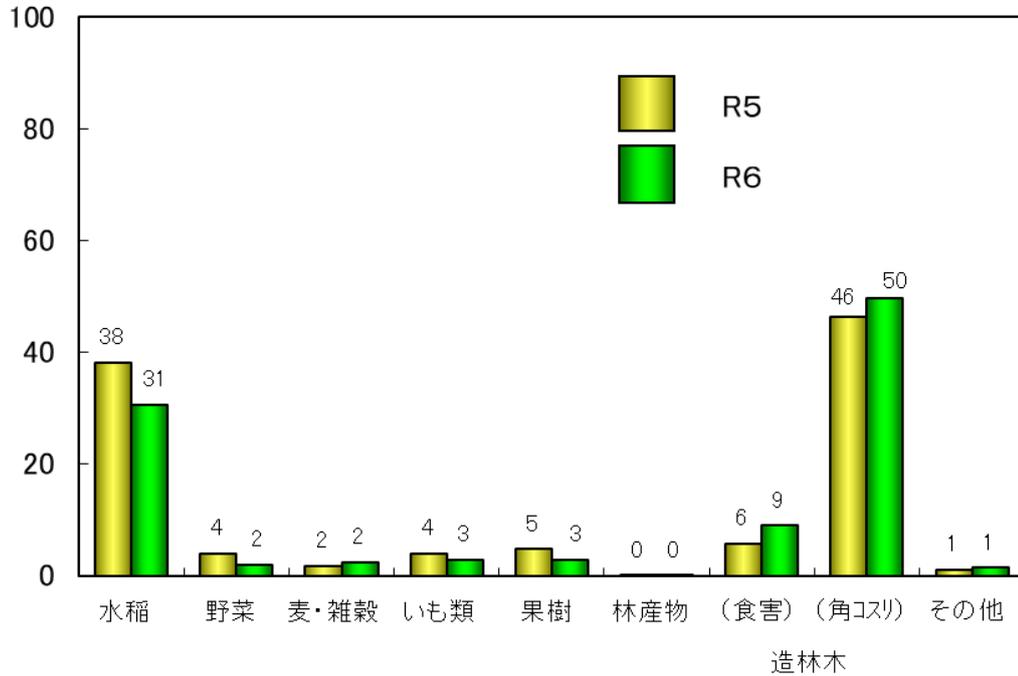


図-10 シカによる作物別被害金額

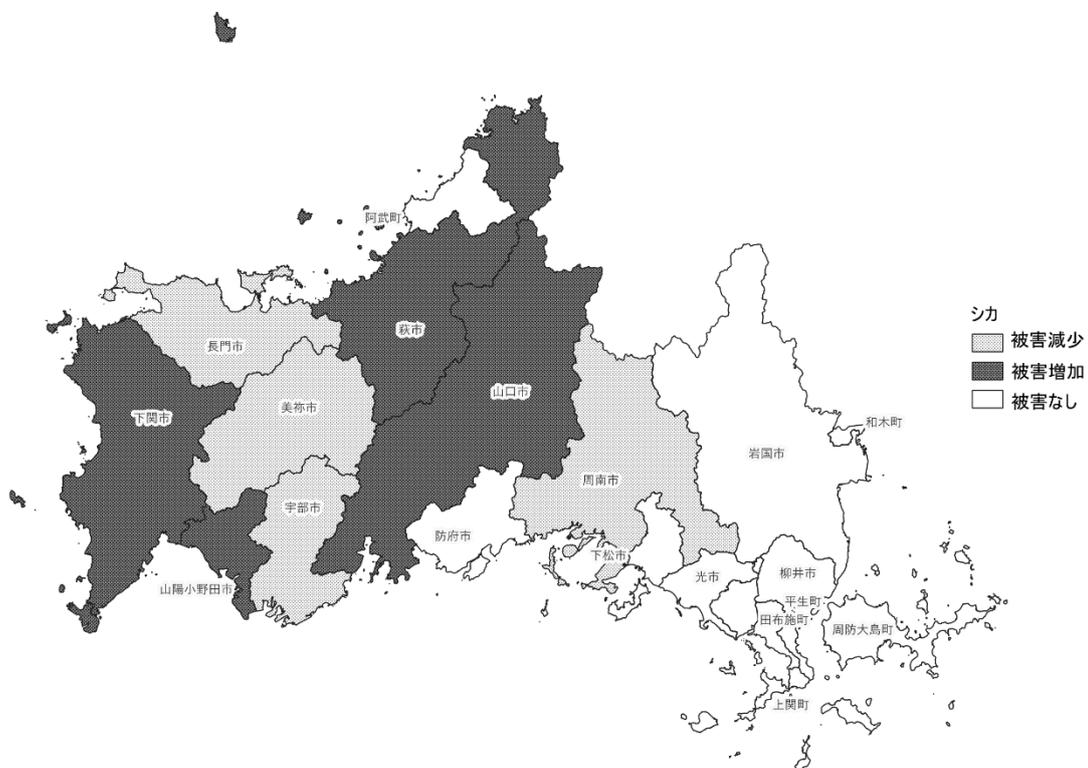


図-11 シカ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(3) サル

サルによる被害は平成27年度から減少傾向にあり、令和6年度は、対前年度比4%減の約4千7百万円となっています。

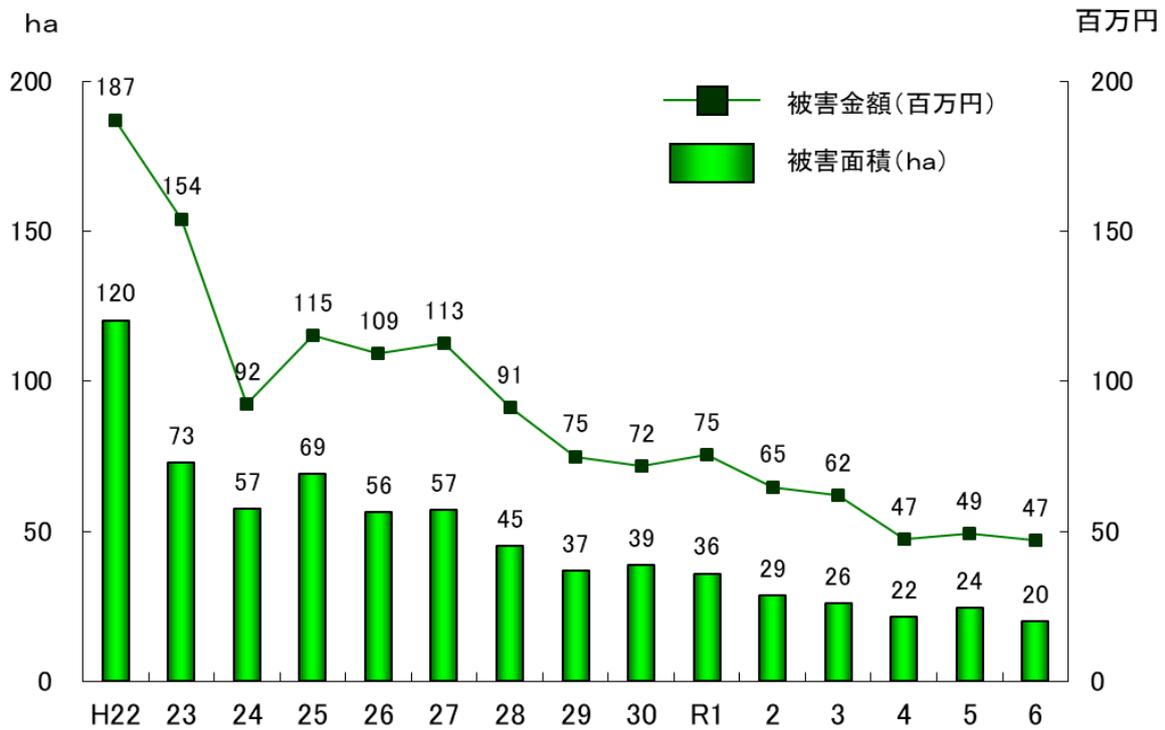


図-12 被害面積及び被害金額の推移 (サル)

被害金額全体に占めるサルの割合は、近年は15%前後で推移しています。

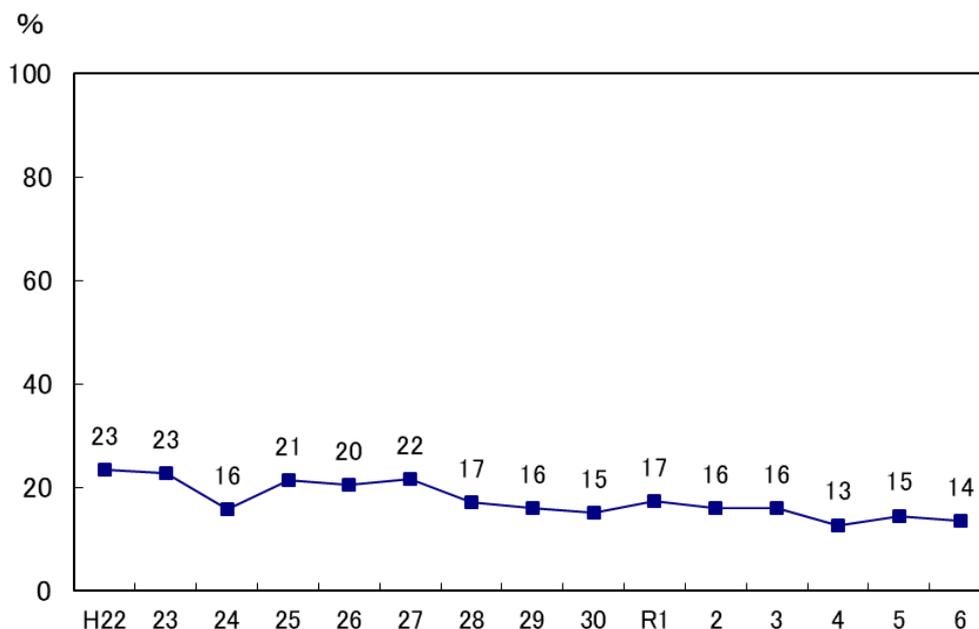


図-13 被害金額全体に占めるサル被害の割合の推移

作物別の被害金額では、果樹が約2千6百万円と最も高く、被害金額全体の56%を占めており、次いで野菜、水稻、いも類の順となっています。

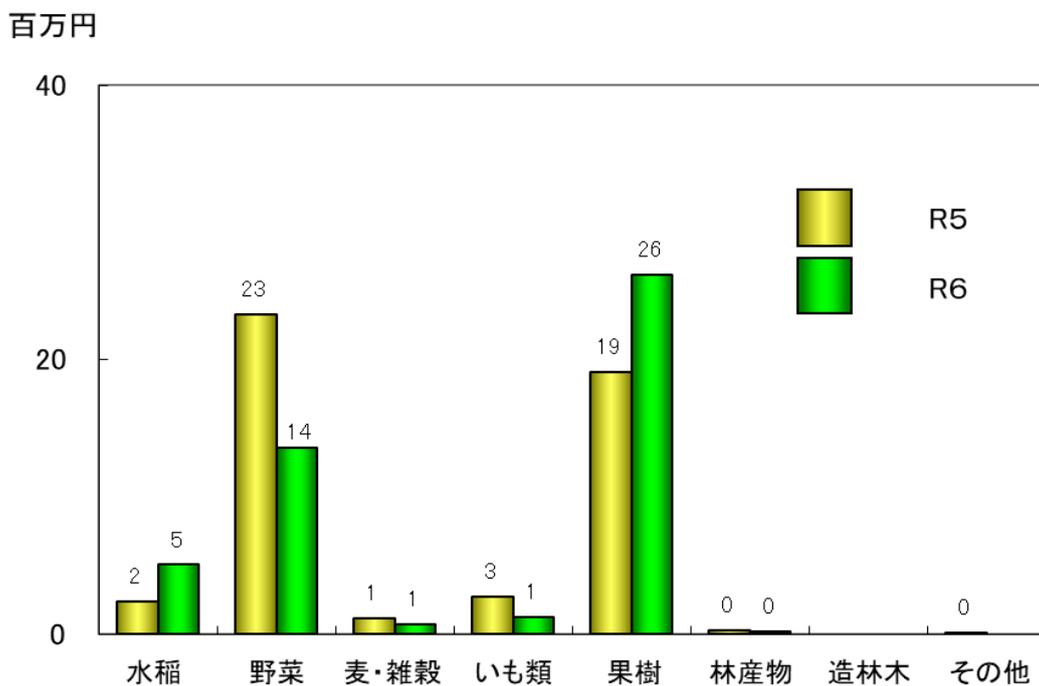


図-14 サルによる作物別被害金額

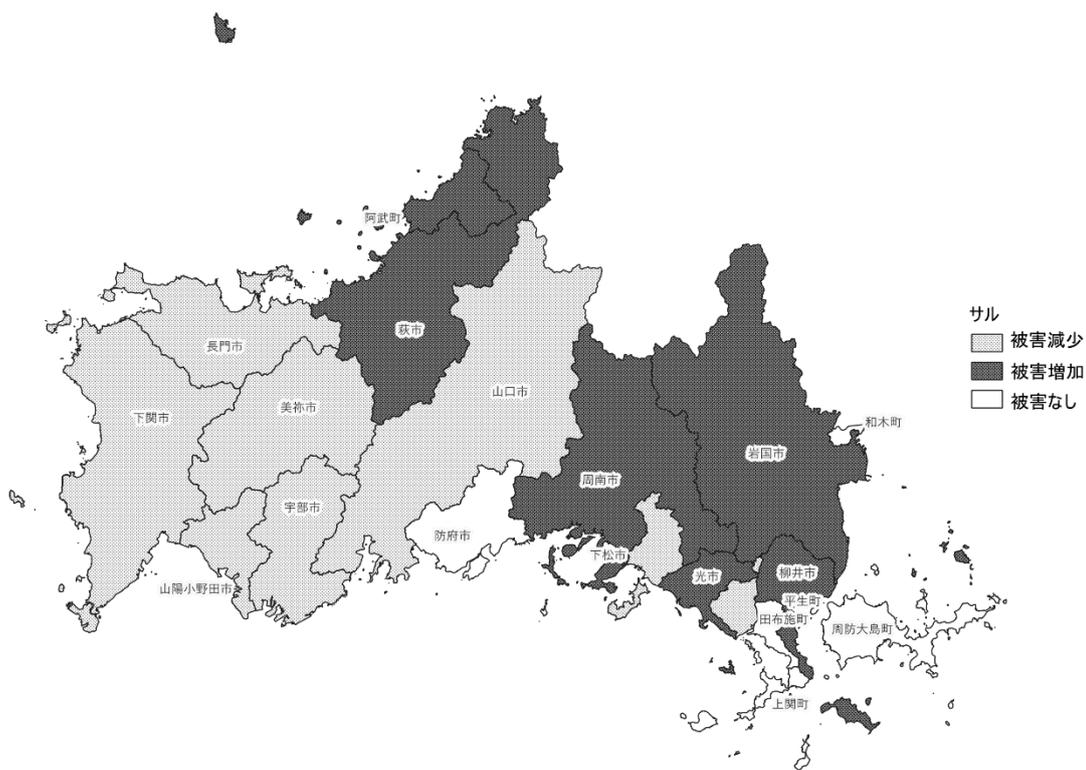


図-15 サル被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(4) クマ

クマによる被害は令和3年度より減少傾向にありましたが、令和6年度は対前年度比87%増の約440万円となっています。

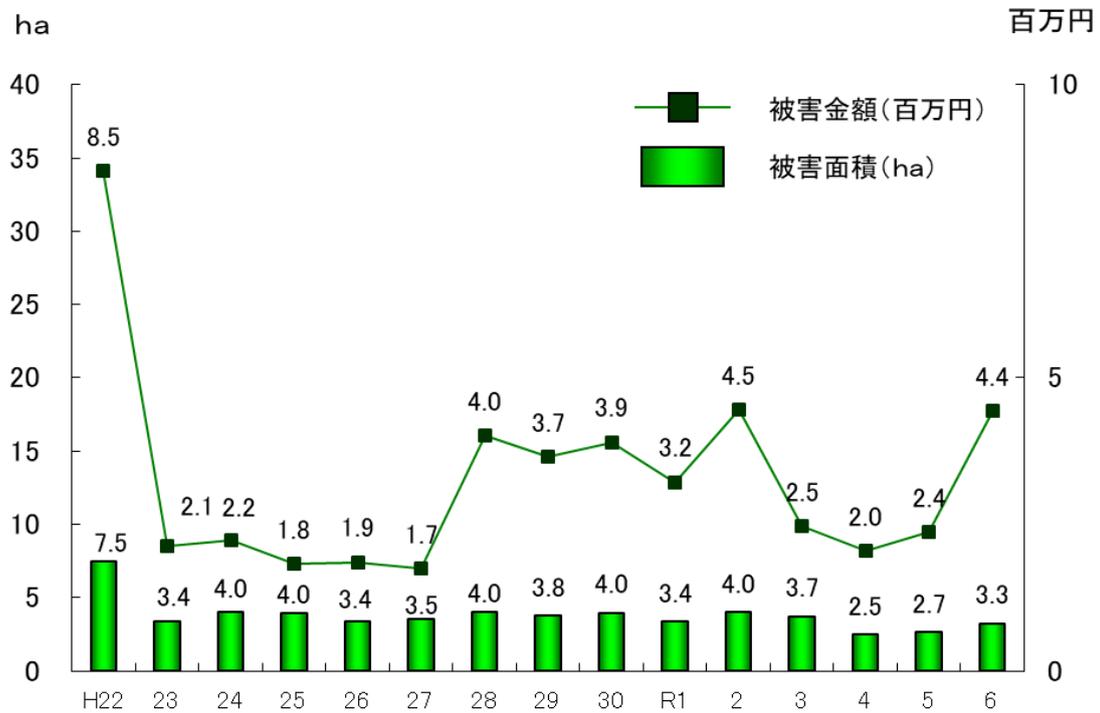


図-16 被害面積及び被害金額の推移 (クマ)

作物別の被害金額では、果樹が66%、その他(養蜂)が34%となっています。

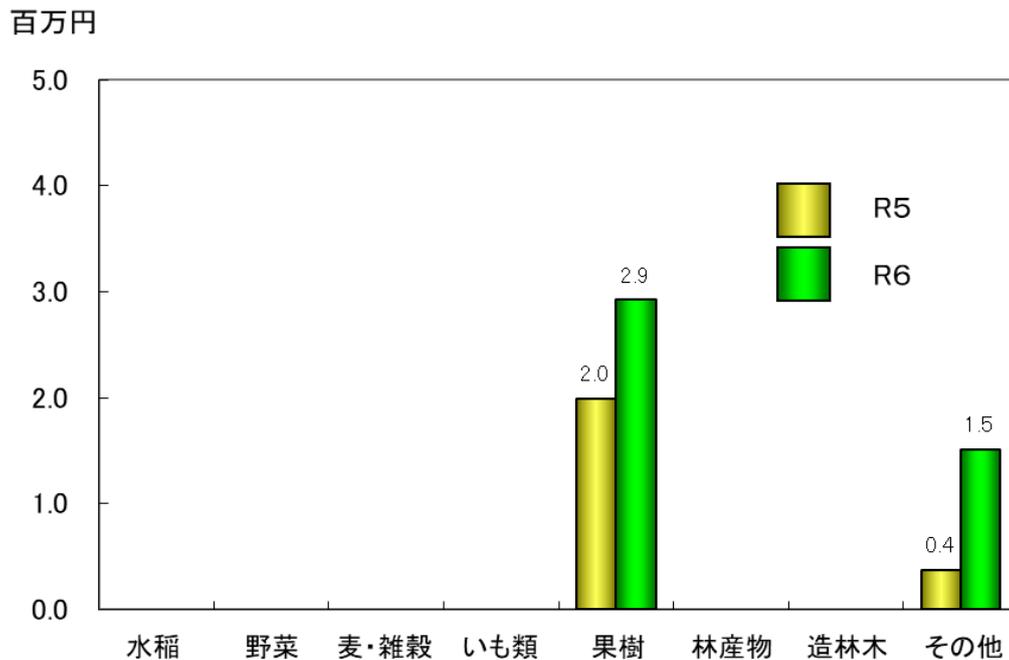


図-17 クマによる作物別被害金額

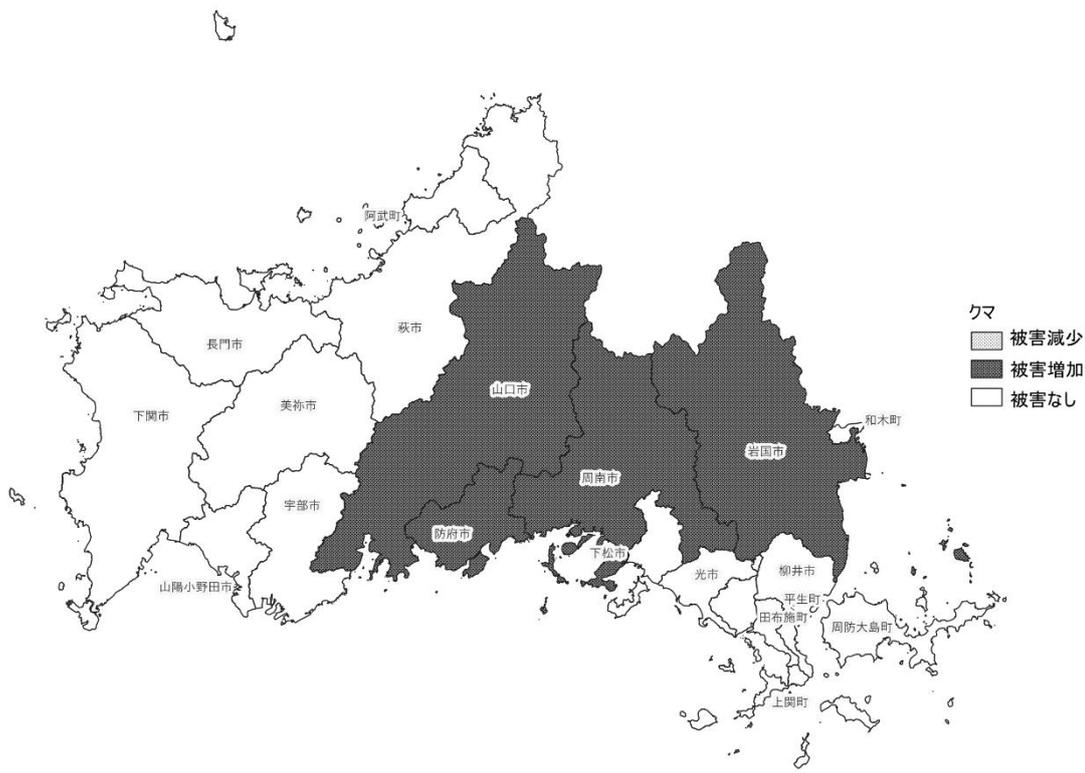


図-18 クマ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(5) アライグマ

アライグマによる被害は、平成29年度以降は年度毎に増減を繰り返していましたが、令和4年度より増加傾向にあり、令和6年度は対前年度比30%増の約520万円となっています。

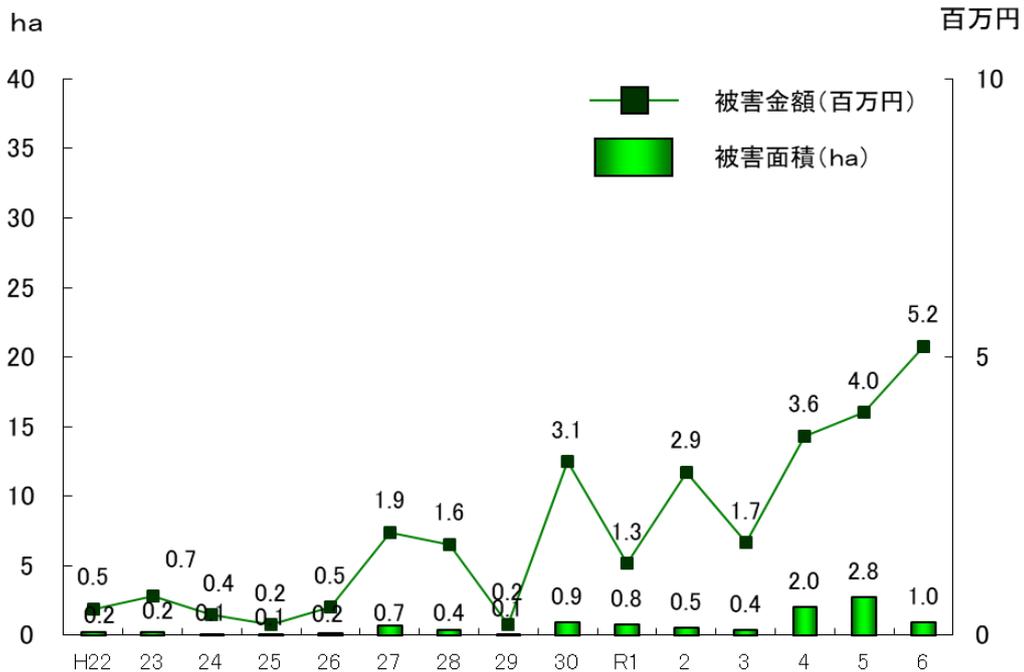


図-19 被害面積及び被害金額の推移（アライグマ）

作物別の被害金額では、果樹が64%、野菜が34%となっています。

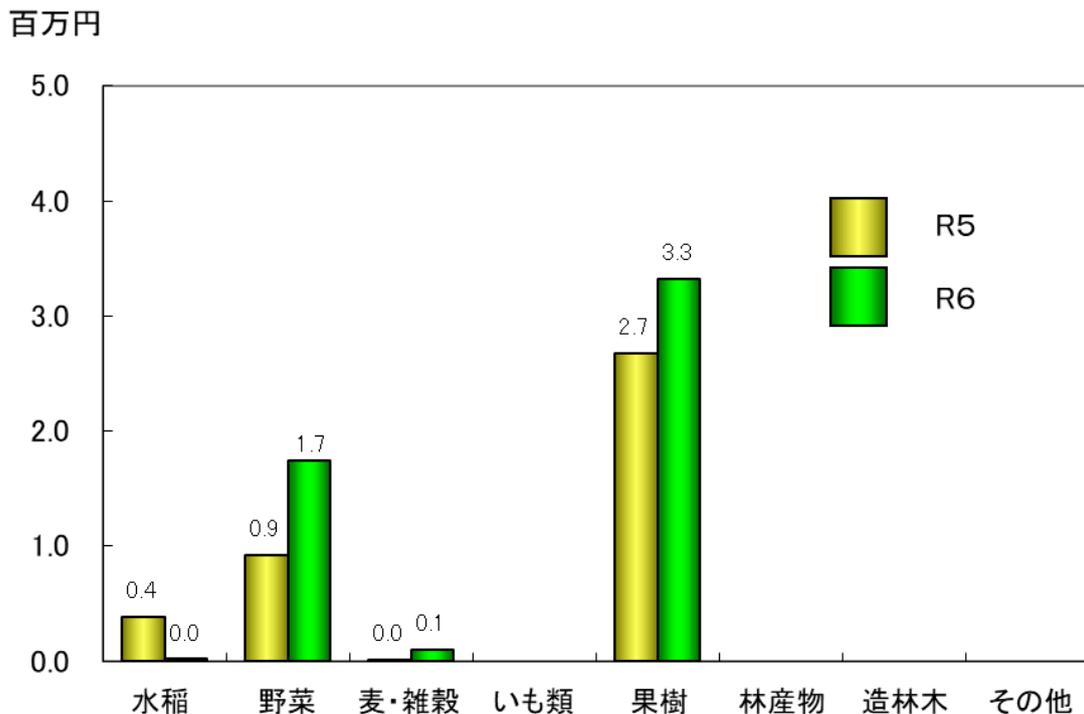


図-20 アライグマによる作物別被害金額

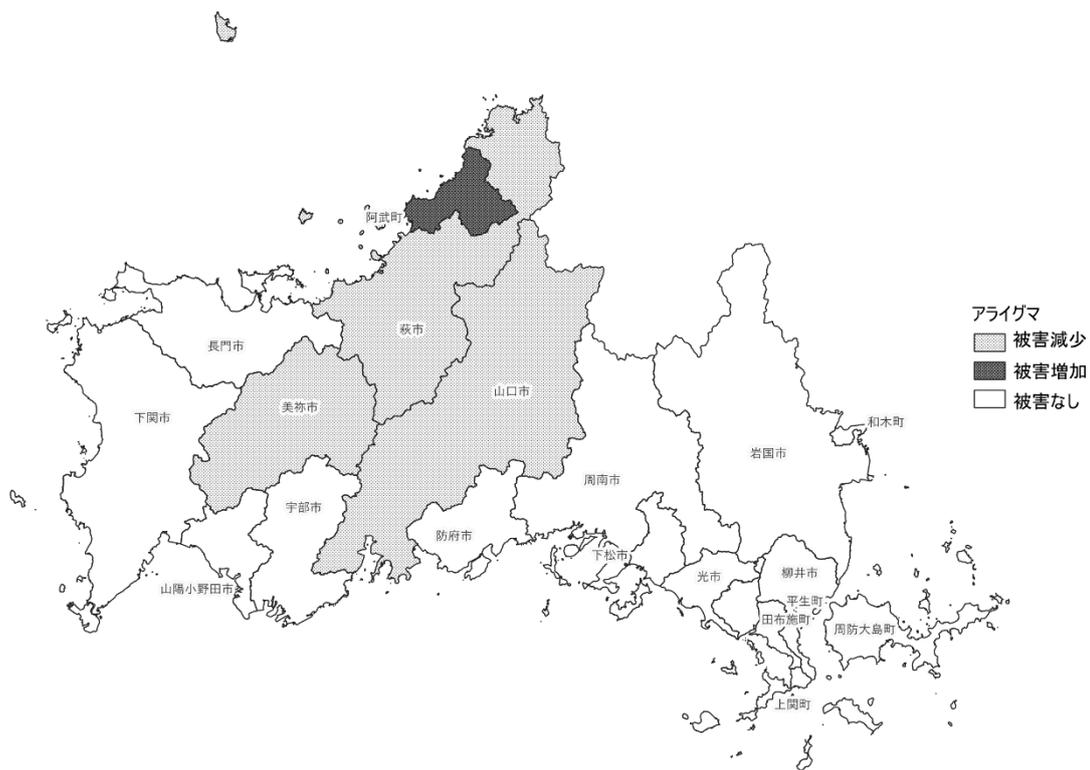


図-2 1 アライグマ被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(6) ノートリア

ノートリアによる被害は平成28年以降増加傾向にありましたが、令和3年度からは横ばい、令和6年度は対前年度比6%減の約660万円となっています。

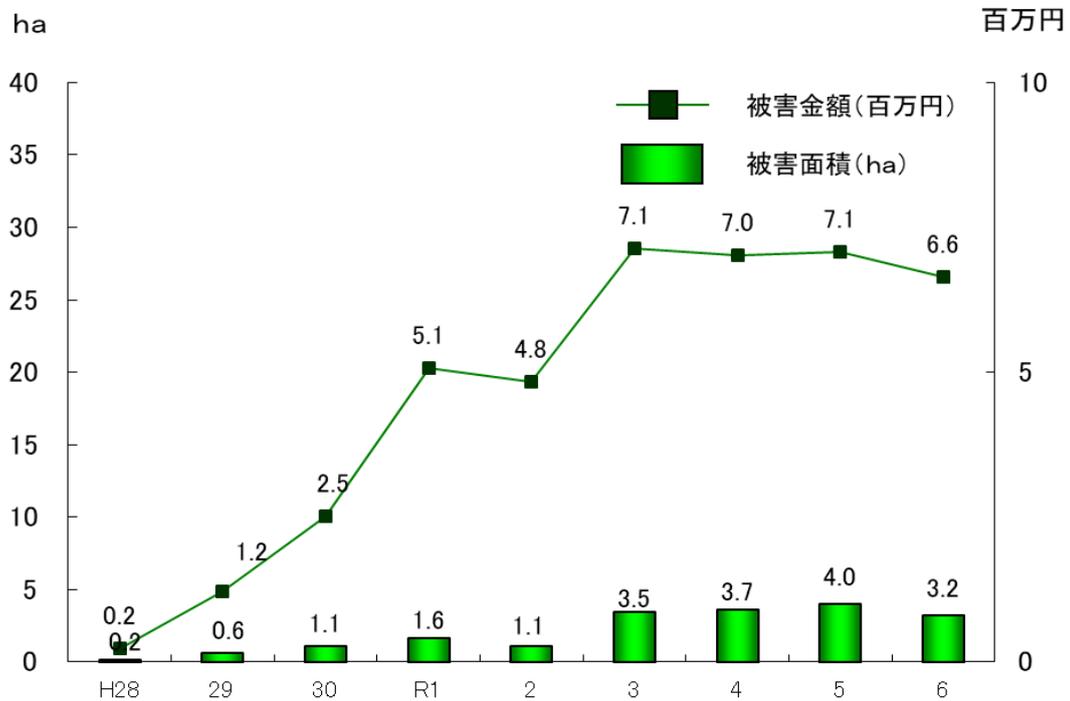


図-22 被害面積及び被害金額の推移（ノートリア）

作物別の被害金額では、野菜が63%、水稻が32%となっています。

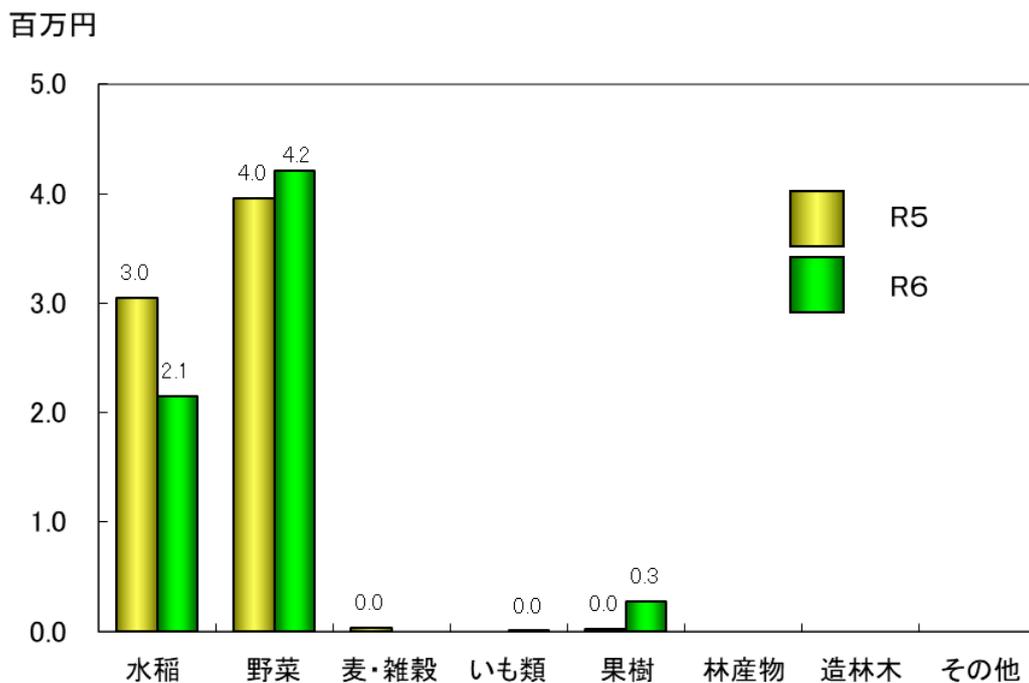


図-23 ノートリアによる作物別被害金額

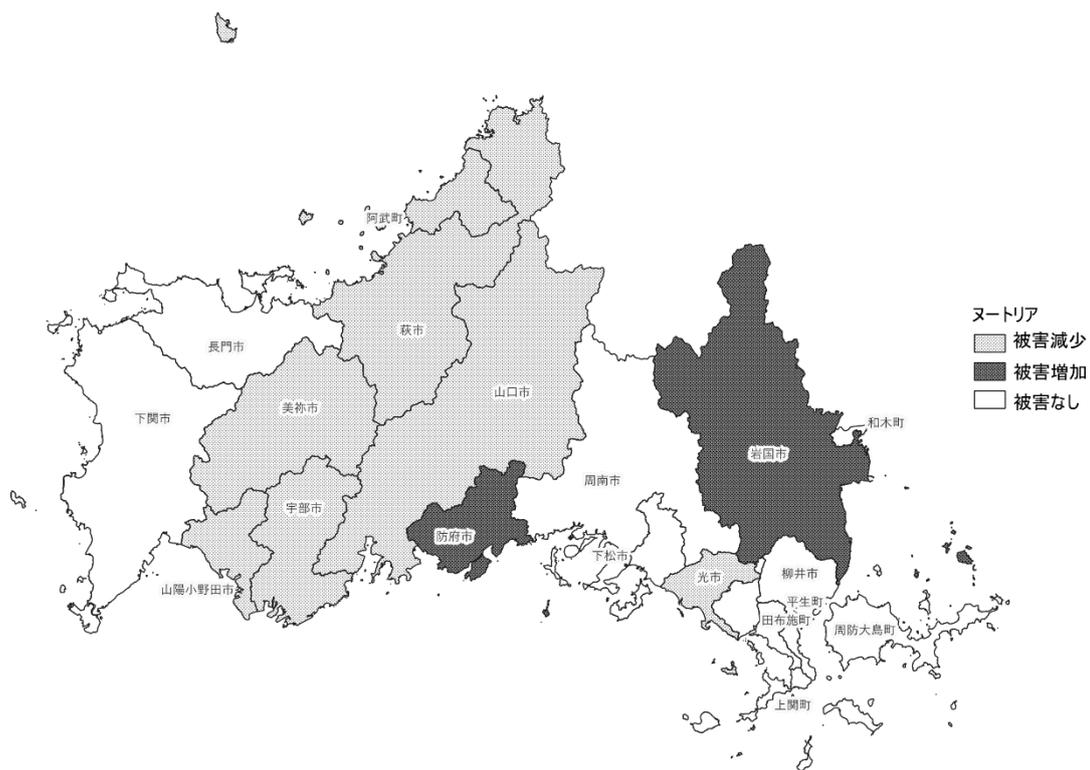


図-24 ヌートリア被害の発生地域（市町別被害額の増減）

(7) その他の獣類

その他の獣類による令和6年度の被害金額は、対前年度比19%増の約5百万円となっています。

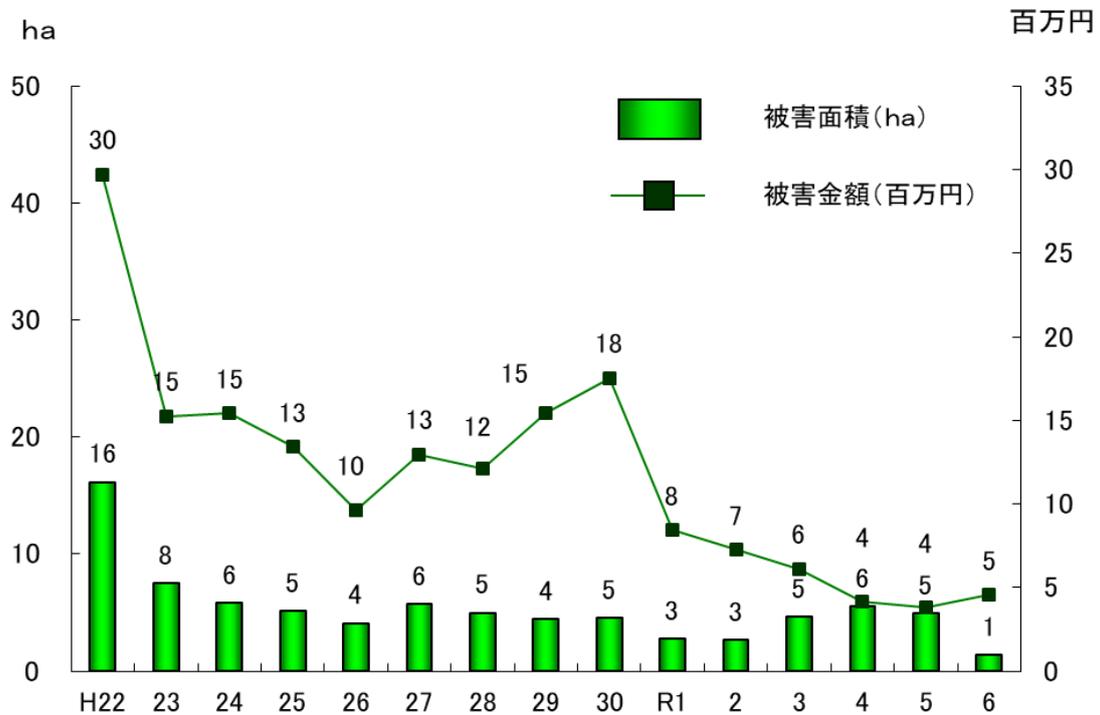


図-25 被害面積及び被害金額の推移（その他獣類）

昨年度と比較するとタヌキ、ノウサギ、アナグマ、その他（テン、ネズミ類）の被害金額がいずれも増加しています。

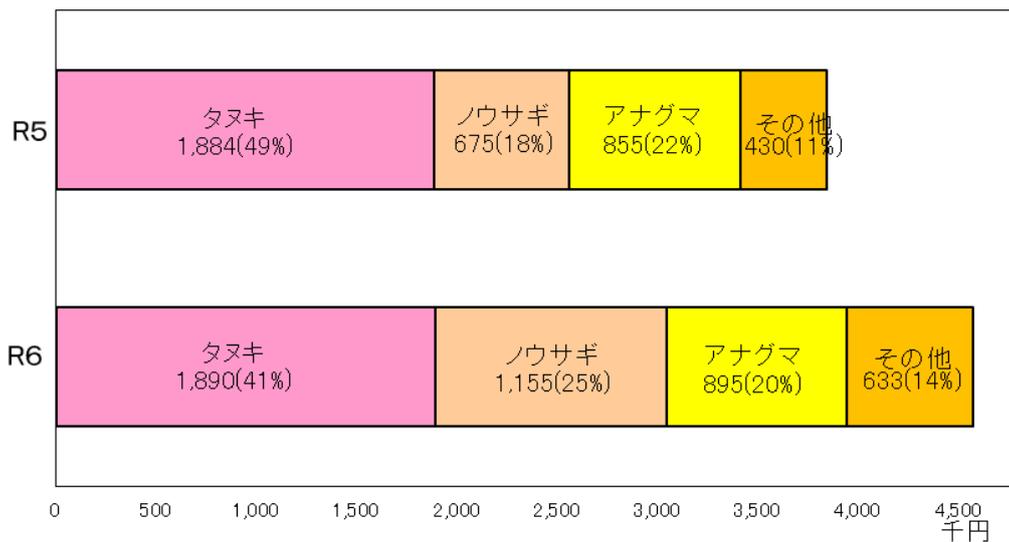


図-26 その他獣類による被害金額の内訳

3 鳥類による被害状況

鳥類による令和6年度の被害金額は、対前年度比23%増の約3千7百万円となっています。

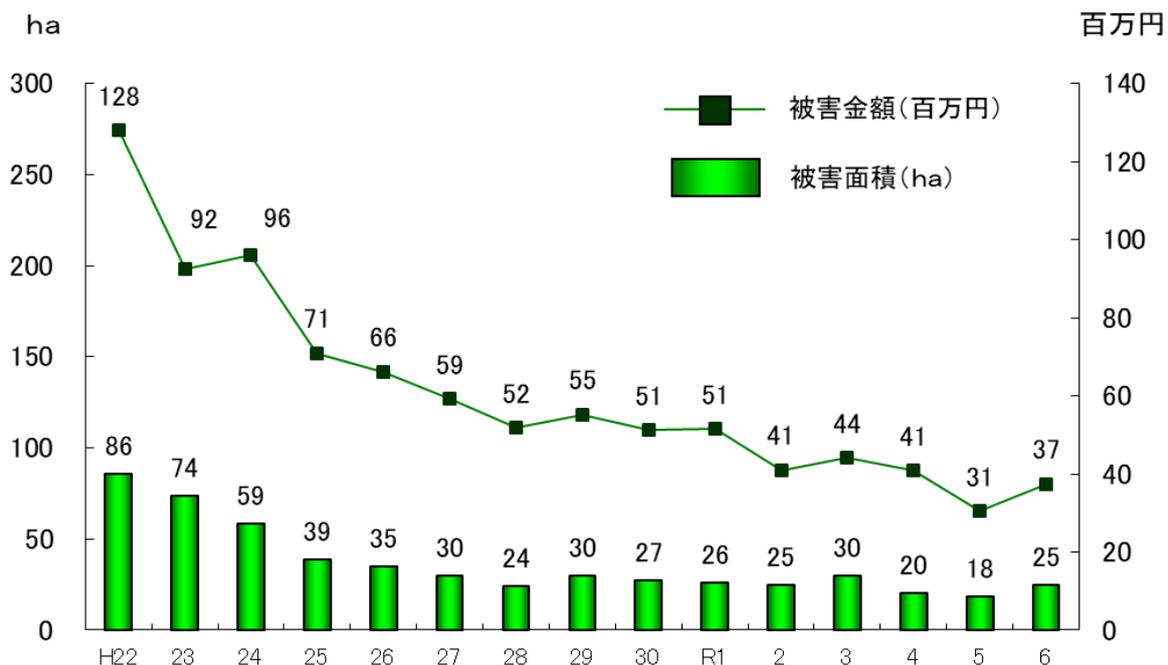


図-27 被害面積及び被害金額の推移（鳥類全体）

被害額全体に占める割合は近年、10%前後で推移しています。

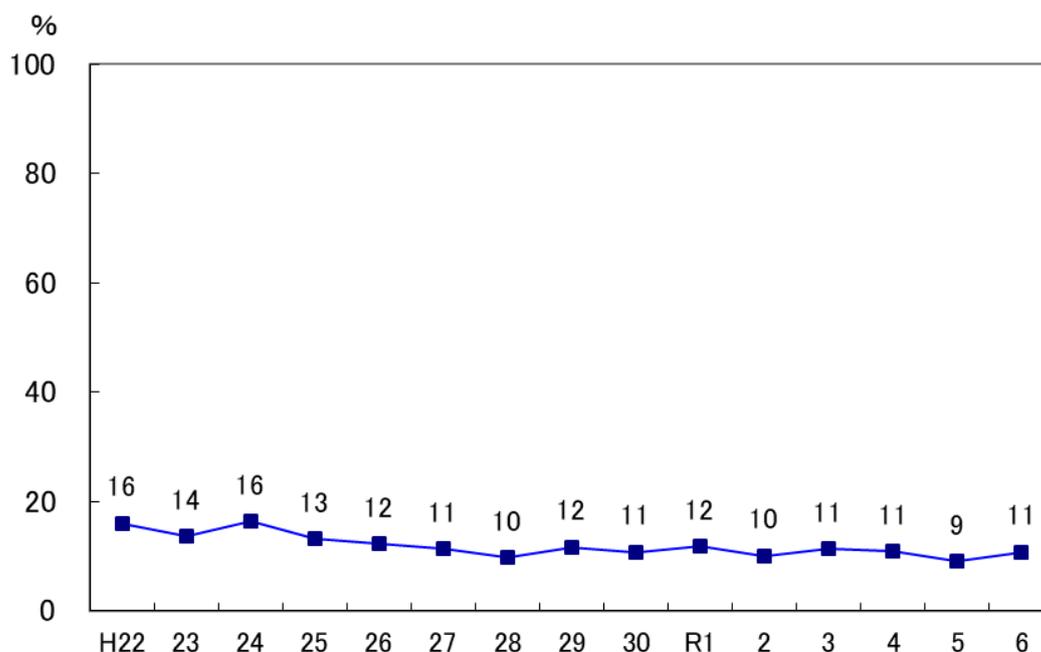


図-28 被害金額全体に占める鳥類被害の割合の推移

昨年度と比較すると、ヒヨドリの被害金額が増加しています。カラスとヒヨドリを合わせて、全体の約8割となっています。

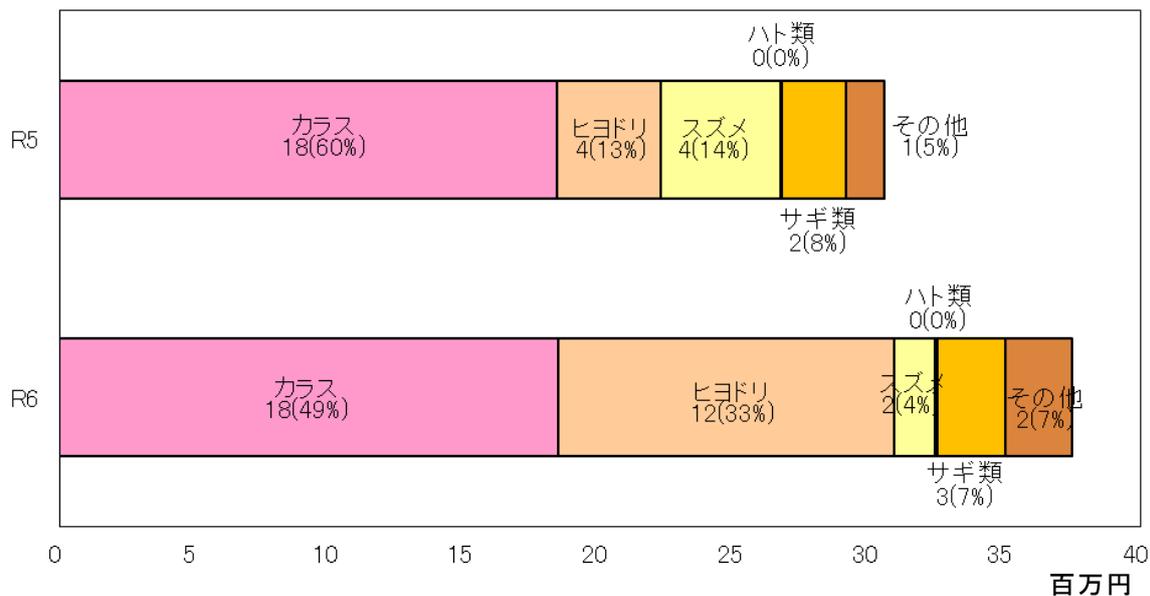


図-29 鳥類の種類別被害の内訳

鳥類の作物別の被害金額では、果樹が最も大きく、次いで野菜、水稻の順となっています。

百万円

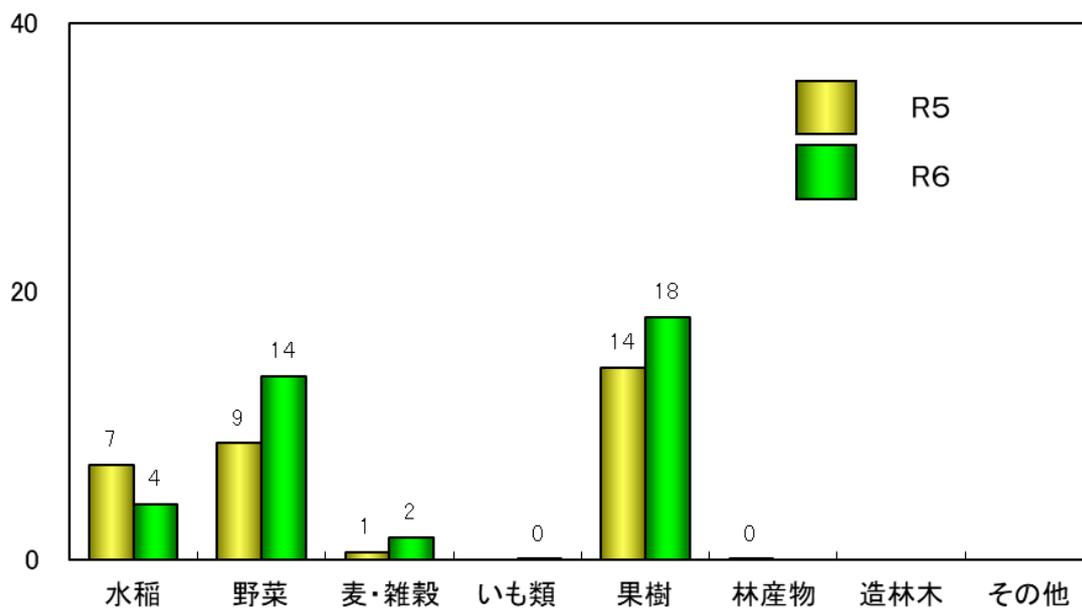


図-30 鳥類による作物別被害金額

【参考】カワウの捕食状況（推定）について

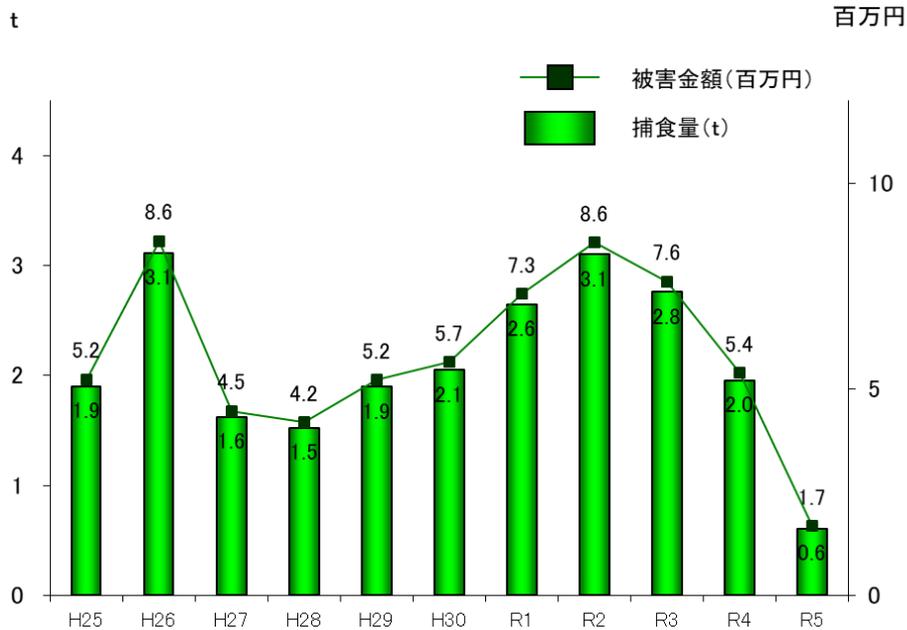


図-3 1 捕食量及び被害金額の推移

○カワウの捕食金額の算定方法

平成 25 年 5 月 14 日付け 25 水推第 132 号水産庁長官通知「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づく被害防止計画の作成におけるカワウによる漁業被害金額の算定方法について」※を用いて推定

$$\begin{aligned} \text{※捕食金額} &= \text{捕食される魚種別重量比}(\%) \times \text{カワウの飛来数}(\text{羽数}) \\ &\quad \times \text{飛来日数}(\text{日}) \times \text{1羽あたり1日の捕食量}(\text{kg}) \times \text{魚種別単価}(\text{円/kg}) \end{aligned}$$

令和 5 年度内水面漁業における被害金額(アユ)推定

	捕食されるアユの重量比 (A)	カワウの飛来数 (B)	飛来日数 (C)	1羽あたり1日の捕食量 (D)	アユの単価 (E)	放流魚の比率 (F)	被害金額 (A×B×C×D×E×F)
4月～5月	7.4%	365羽	45日	0.5kg/日	4,600円/kg	60.0%	約167万円 (捕食量0.6t)

- ・ (A) : 令和元年12月全国内水面漁業協同組合連合会資料より
- ・ (B) : 令和5年度モニタリング調査よりねぐらにおける個体数
- ・ (C) : 放流から漁獲開始まで
- ・ (D) : 25水推第132号水産庁長官通知より
- ・ (E) : 中間育成放流用アユ種苗単価 (山口県内水面漁連)
- ・ (F) : 山口県水産研究センター調べ